

施設一体型小中一貫教育校 先進事例視察候補一覧

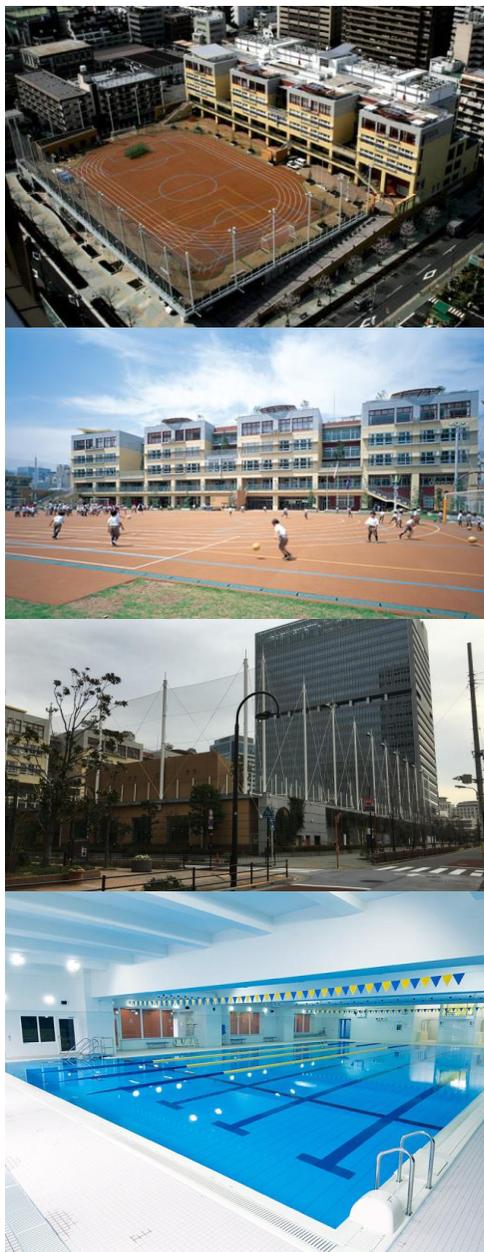
学校名	横浜市立 霧が丘学園	品川区立 日野学園	品川区立 品川学園	川崎市立 はるひ野小中学校
所在地	〒226-0016 横浜市緑区霧が丘四丁目3番地(小) 横浜市緑区霧が丘四丁目4番地(中)	〒141-0022 品川区東五反田2-11-1	〒140-0001 品川区北品川3丁目9番30号	〒215-0036 川崎市麻生区はるひ野 4-8-1
				
学校制度	義務教育学校	義務教育学校	義務教育学校	小中連携校
学年制	4-3-2制	4-3-2制	4-3-2制	4-3-2制
校舎形態	小中学校隣接	施設一体型	施設一体型	小中学校接続(増改築)
学期制	二学期制	三学期制	三学期制	二学期制
児童・生徒数 (R4.05.01現在)	小学部468名＋中学部274名＝742名	前期課程524名＋後期課程434名＝958名	前期課程778名＋後期課程368名＝1,146名	小学部975名＋中学部402名＝1,377名
校長先生数	校長1名(小学部に准校長1名を配置)	校長1名(小学部に准校長1名を配置)	校長1名(小学部に准校長1名を配置)	校長は小学部・中学部それぞれ1名
特区指定	・パイオニアスクール事業で小中連携実践 ・併設型の小中一貫教育校を設置	・2003年に小中一貫特区として認定 ・品川区全小中学校が特区研究開発学校指定	・2003年に小中一貫特区として認定 ・品川区全小中学校が特区研究開発学校指定	・川崎市麻生区黒川はるひ野地区の中核公共施設として設置(特区、研究校の指定なし)
開校経緯	・2010年4月 横浜市立霧が丘小学校 横浜市立霧が丘中学校 → 横浜市立小中一貫校「霧が丘小中学校」 → 2016年:学校教育法改正法施行により義務教育学校「横浜市立霧が丘学園」開校	・2006年4月 区立第二日野小学校 区立日野中学校 → 品川区立小中一貫校「日野学園」 → 2016年:学校教育法の一部改正により義務教育学校「品川区立日野学園」開校	・2011年4月 品川区立品川小学校 品川区立城南中学校 → 品川区立小中一貫校「品川学園」 → 2016年:学校教育法の一部改正により義務教育学校「品川区立品川学園」開校	・2008年4月 川崎市立栗木台小学校 川崎市立白鳥中学校から分離独立し開校 → 小中一貫教育校「はるひ野小中学校」
小中一貫歴	12年(義務教育学校6年)	16年(義務教育学校6年)	11年(義務教育学校6年)	14年
教室配置	・既存施設 ・小学部校舎:3階建て ・中学部校舎:2階建て	・新築校舎6階建て 2階:1, 2年生用教室 3階:3, 4年生用教室 4階:6, 7, 5年生用教室(7年生中心) 5階:8, 9年生用教室 6階:特別教室 ・4-3-2制のクラスター設計	・新築校舎4階建 1階:1, 2年生用教室 2階:3, 4年生用教室 3階:5, 6, 7年生用教室 4階:8, 9年生用教室 ・隣地に北品川すこやか園併設＝0歳の乳児から15歳の生徒までが通う複合施設	・新築校舎5階建 1階:1, 3年生用教室 2階:2, 4年生用教室 3階:6, 7年生用教室 4階:5, 8, 9年生用教室 (5年生＋8年生,9年生)

教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわり合いを大切に教育を推進 ・酒井校長:単に『中1ギャップ』の解消を目的に教育活動をしているわけではない。年少者と年長者をどう育てるかに向き合えるシステムだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標:国際社会で自己実現を果たす児童・生徒の育成 ・ステップアップ学習で読み書き計算の完全習得、問題解決学習、発展的学習の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現を図りながら活躍し、よりよく社会を変え、支える人材を育てる ・新たな価値を想像する力 ・グローバルに活躍する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知力」「心情」「体力」「小中連携」…楽しく学び、助け合い、明るく、誰とでも仲良く ・合築校舎施設を生かし、従来の小学校・中学校の概念を打破し、新たな学校文化を創出
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・「9年間継ぎ目のない教育」で予測困難な時代を生きていく資質・能力を育成する ・教員の相互乗り入れ授業、9年間一貫した児童生徒指導や特別支援教育、縦割り活動 ・フレックスタイム制/メンターチーム制 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を新たに「学力の育成」と「生活力の育成」の2本の柱を中心とする ・四つの柱:①学力向上、②交流活動、自治的活動、③キャリア教育、進路対策、④市民科、自学自習(品川教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミドルアップダウン体制の9年間カリキュラム ・基礎基本の定着-寺子屋的指導-(1,2,3,4年) ・基礎基本の徹底-道場の指導-(5,6,7年) ・個性の伸長-私塾的指導-(8,9年) ・リーダーシップ育成と将来設計(品川教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達・教職員が地域と共に成長するコミュニケーションスクール ・小中連携教育カリキュラム開発研究校 ・小中9年間の学びの連続性を踏まえた確かな学力を身に付けるための研究を推進
乗入れ授業	<ul style="list-style-type: none"> ・教科分担制(教科担任制/兼務発令なし) ・1人の教員が特定教科を受け持ち、複数の学級で授業を行う指導法 	<ul style="list-style-type: none"> ・5,6,7年生50分授業(教科担任制) ・8年生から将来設計 ・学習指導要領+70時間~105時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・5,6,7年生50分授業 ・第5,6学年の全教科で教科担任制を実施 ・4年生:リーダーシップ ・7年生:ミドルリーダーと自己分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・5,6,7年生50分授業 ・全職員に兼務発令
	<ul style="list-style-type: none"> ・「整数の性質」、「中学校外国語の一部」を6年生に前倒し、理科のレポートの書き方を統一 ・学習状況を考察して、授業の前倒し・後送りの適正在り方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語、家庭科、図工は教科担任制(後期課程教員が前期課程に指導する) ・数学科7年「正の数負の数」を6年に前倒し ・社会科7年「世界の姿」を6年に前倒し 	<ul style="list-style-type: none"> ・品川学園では、5年、6年で学級担任7人と副担任2人、講師2人、後期課程の区固有教員1人の計12人で全教科を教科担任制とした時間割を編成 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科センター方式:早期教科担任制 ・生徒が教室で先生を待つのではなく、その教室へ学びに行く ・その教科の魅力を伝える教室
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年混合の給食「きりたま給食」 ・きりたま交流授業「きりたま音楽会」 ・その時々で変わる「きりたまタイム」 ・全員集合!「☆朝きりたまタイム☆」 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流 Brothers & Sisters (異年齢交流) Five & Six & Seven (5+6+7年生交流) Eight & Nine (8+9年生交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会(春季5~9年生、秋季1~4年生) ・縦割り班活動(1学年~4学年) ・委員会(5~7学年)、連合自治会(8~9学年) ・部活動(運動部:5~9、文化部:4~9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流オープンスペース ・交流動線重視の校内ゾーン設計 ・美術、図工、創作ゾーン/音楽ゾーン ・1,2年生教室には安らぎゾーン「パオ」
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・7学年 職業講話:6つの職種(不動産、食品、動物園、美術館、映画、土木関係) ・8学年 職業講話・体験=5校(アイム湘南理容美容専門学校、専門学校神奈川総合大学、町田鎌田学園横浜高等専修学校、ヨコスカ調理製菓専門学校、横浜デザイン学院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・品川区立小中一貫校共通の実学主義学習 ・品川区市民科学習 ・5年生:スチューデントシティ ・8年生:ファイナンスパーク ・「体験型経済学習」(協力:ジュニア・アチーブメント日本) 	<ul style="list-style-type: none"> ・品川区立小中一貫校共通の実学主義学習 ・品川区市民科学習 ・5年生:スチューデントシティ ・8年生:ファイナンスパーク ・「体験型経済学習」(協力:ジュニア・アチーブメント日本) 	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎フロンターレによるサッカースクール ・2018年10月ブエノスアイレス・ユースオリンピックで初めて採用されたダンススポーツ競技・ブレイキン(ブレイクダンス)で金メダルを獲得した河合来夢
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育(2018.11.5) 昭和大学医学部看護学科・理学療法学科・作業療法学科のそれぞれの体験学習をしました。赤ちゃんのおむつ交換、一次救命処置、車いす操作、温熱療法、自助具(福祉用品)使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・実学主義の品川区立小中一貫教育 ・お金の大切さや社会の仕組みを教える「体験型経済学習」(ジュニア・アチーブメント日本) ・スチューデントシティでは、仕事に遅れると同僚やお客に迷惑がかかるので、時間を守らなければならない理由が体験を通して理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・実学主義の品川区立小中一貫教育 ・お金の大切さや社会の仕組みを教える「体験型経済学習」(ジュニア・アチーブメント日本) ・スチューデントシティでは、仕事に遅れると同僚やお客に迷惑がかかるので、時間を守らなければならない理由が体験を通して理解できる 	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教室:8年生と5,6組で国際理解教室を実施。横浜市教育委員会から6名の講師を招待(イギリス・ニュージーランド・ウズベキスタン・タイ・ロシア・ルーマニア) ・オリンピック・パラリンピック訪問事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・5,6年生の定期考査(中間・期末) ・FSS交流で漢字コンテスト(教え合い) ・EN集団討議 	<ul style="list-style-type: none"> ・4-3-2制区切り行事:ブロックリーダー引継式(4学年)/立志式(7学年)/卒業式(9学年) ・品川地域未来塾/世界友達プロジェクト ・英検、漢検、数検(9年生ですべて三級以上=トリプルスリー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の教室の前にフリースペースやメディアコーナーを設置 ・低学年児は行動範囲が他の学年より狭いことに配慮、必要な機能を教室前にまとめた ・教員の目も届きやすく、安全面でも効果的
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校を経て義務教育学校となるまでの過程 ・最終的に義務教育学校とした目的 ・教育内容など 	<ul style="list-style-type: none"> ・4・3・2制による教育の内容 ・校舎内の学年配置の意図 ・B&S活動の具体的な内容など 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校としての教育の内容 ・校舎内の学年配置の意図 ・0歳の乳児から15歳の生徒までが隣接する教育的メリットなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,300人を超える児童生徒がいる校舎のレイアウトや工夫した点 ・義務教育学校ではなく小中一貫教育校とした理由など

横浜市立 霧が丘学園



品川区立 日野学園



品川区立 品川学園



川崎市立 はるひ野小中学校





異なる学年、交流スペース

文科省、事例集も

小学校低学年の教室（奥）の前にフリースペースを設けた川崎市立はるひ野小中学校

真校舎に指針

「上」にまっさらな「一層設分離型」が8「型」などで同じ校舎を使う

